

- 平成25年10月定例教 … 児童生徒数の推移表、校区区割り図を基に協議
- ・4中学校あるが、規模的、質的なものについて考えなければならない時があると思う。
 - ・現状を把握しながら、学校の質をどうするとか、将来の子どもたちのためどういう環境を整備するのがいいかという議論のための資料である。
- 平成26年 5月定例教 … 学校区別児童生徒数の推移表、校区区割り図を基に協議
- ・校区を大々的に変更するのか、的を絞って行うのかという議論をしていかないといけない。
 - ・適正規模の点から、児童生徒数と教室数をベースに考える視点が出てくる。短期間に解決すべき課題をどこにするかを議論しなければ、いつまでも視点が定まらないことになりかねない。ある程度課題を絞り込んで進める必要がある。
 - ・中学校の規模が小さいと、教育活動上支障が多くなるので、今後を見据えて、早急に手を打つ必要がある。
- 6月定例教 … 学校区別生徒数・学級数の推移表、教室数一覧表等を基に協議
(議会で指摘のある「卒業後に同じ中学校へ進学できない」という点の参考資料として、①犬北小、羽黒小、東小を全員同じ中学校にした場合の推移、②東小についてのみ城東中からすべて東部中に変更した場合の推移も提示)
- ・城東中の教室が不足し、通常の学習活動ができなくなるという観点で、小規模化を図るという論理が理解できると思う。
 - ・東小から城東中へ進学する子を東部中に変更することで、通学時間等はどうなるか。→通学距離が長くなるので、自転車通学も考えられ、それほどの負担にはならないと思う。安全な通学路を確保する必要が出てくる。
 - ・東小の子が全て東部中へ通うことは、数字だけから考えるとベターな方法だと思う。ただ、他の学校をそのままにしておくのはどうか。考えがまともでも、今後の手続きの進め方が問題になる。
 - ・全部の学校について検討するのは大変なことで、東小に関わる所に絞って検討するのがベターな考えだと思う。
 - ・城東中の増加と東部中の減少に焦点を置いて検討するのが妥当。
- 随時 … 質疑及び資料提供
- 11月市議会 … 一般質問に対し、新年度に通学区域審議会を立ち上げ、諮問、答申等を経て、教育委員会としての判断を行う予定と答弁
- 平成27年 2月定例教 … 学校別児童生徒数・学級数の推移表、通学区域審議会規則等を基に協議
(検討課題として、①小学校の卒業生を分けないで、全員同じ中学校に進学させられないか ②東部中と城東中の生徒数の規模の適正化が図れないかの2点を、シミュレーションとともに提示)
- ・小学校が分かれて進学する中学校を議論の中心に据えたらどうか。
 - ・シミュレーションのメリット・デメリットを明らかにして示して欲しい。
- 3月定例教 … 付議事件で、「通学区域審議会を設置し、諮問事項を城東中学校と東部中学校の学校規模及び通学区域の適正化についてと定める」と提案の上、協議
(シミュレーションのメリット・デメリットを示した資料も提示)
- ・検討課題が二つあるのは、今後のことを考えると1年では無理。城東中と東部中との校区変更を行うということで諮問した方がよいと思う。小学校の分かれる進学先については、中学校の適正規模を考えつつ、将来的な課題とした方がよい。
 - ・小学校の校区まで広げると1年や2年では議論できない。中学校区をどうするかに絞って考えることが必要。
 - ・制服や体操服、教職員定数や人事異動も考えると1年ではどうか。
 - 課題②に絞りこみ、継続案件として4月に諮問内容を決定することで承認。
- 平成27年 4月定例教 … ○諮問事項を「城東中学校と東部中学校の学校規模及び通学区域の適正化について」とし、諮問趣旨を「城東中学校では、生徒数の増加に伴い、教室数が不足するなど、施設・設備面で限界に達しており教育活動にも支障が大きくなっています。一方、東部中学校では、生徒数の減少により、学校規模が小さくなり、教育活動や部活動に支障が生じています。こうした現状を踏まえ、充実した学校教育の実現に向けて、現在は城東中学校区になっている前原地区の通学区域の見直し等について、貴審議会の意見を求めます。」とす
- ・いつから実施するのか、兄弟関係も含め経過措置をどうするのかなど煮詰めておかななくてはならない。